

リヴァプールの美術館

F. O. 生

英國リヴァプールの WALKER ARTGALLERY は堅牢且つ質素なる建物にして、外部の體裁はさして立派ならぬも、一度その内に入るときは、新古を合せて六百余點の大幅小幀は吾等の膽を奪ふべくそれ／＼光彩を放つてゐる。階下は廣く六室程に分たれて、澤山の古畫と少しの彫刻とがある、室内は光線の工合あしく、繪畫にもさして注意すべきものはない。階上は大小十三の室があつて、陳列の繪畫は皆近代英國畫家の手になり、いづれも一度ローヤル、アカデミーに出品されたもので曾てカタログで見た事のある繪を此處で澤山發見した、アメリカでよいと思つた程の繪は此處では悪作の部で、太西洋を一つ隔てたばかりでかくも違ふものかと驚かれた。さてそのうちで殊に際立つてよいと思つたものを擧ぐれば、"MIDSUMMER DAY," と題する THOMAS HUSON 氏の溪流の圖、物體の後方より強き太陽の照せる有様を巧に現はし、かゝる場合に最も難しとするその遠近の調子極めてよく、ARTHUR HACKETT 氏の "PELAGIA AND PHILAMM" は、汐退きたる沙上に手を組合せて胸にあて裸體のまゝ横はれる死美人傍に頭巾深く冠りて跣りつゝそを見守れる人、崖際に二羽の小鳥の並ぶる、極めて象徴的な全體が灰色の空氣に包まれた悽愴の感の深い繪である。SOLOMON J. SOLOMON 氏の大

作 "SAMSON" は、人物の活動最も喜ぶべく、用筆の巧なるは敬服のほかなし。"BONLEERS AT REST," と題する I. G. NEISH 氏の石の寫生、山際の崖崩れて種々なる石が自然に重なり合ふた處を眞面目に寫生したものであつて、石は各々其性質が充分に現はれて、撲ては音もすべく觸るれば冷やかに感ずべく、目の前に實物を見てゐると少しも異なる感じがしない、さればとて寫眞のそのやうに無意味のものではなく統一も變化もあつて全體がよく引締つてゐる、其技倆の凡ならぬに驚嘆せざるを得ぬ。このやうな寫生は或は愚に近いかも知れぬが、誰れでも年に一枚位は試みてよいだらうと思はれた。DAVID MURRAY 氏の "MEADOW SWEETS" という繪は、夏の牧場を寫したもので、和らかき緑の色も嬉しく、前面の土手に刈られて半ば乾いた草は今にもそのいきれ臭き匂ひがして來そうである、ROSETT 氏の "DANTES DEAN" は有名な大作ではあるが、思つた程感を惹かなかつた、僕の鑑賞力が低い故かも知れない、粧飾畫として見るべきものか、赤い鳥紅い花、夢であつて見れば、それもよいのであらう。HENRY HOLIAAY 氏の "DANTE AND BEATRICE" も面白い作で、フロランスの町の有様、ダンテがベアトリチーに見惚れてゐる様子は何とも云へない、伊太利に來てゐるやうな氣になつた。PALIPH. CALDERON 氏の "RU TH AND NAOMI" は暖かい心持のよい繪で、"O MISTRESS MINE. WHERE ARE YOU ROAMING?" O

STAY AND HERE YOUR LOVE'S COMING"といふ
永々しい書題の EDWIN ABBEY 氏の繪は、おつとりし
た處に言ひ知れぬ味がある、全體が青白い着色のうちに遠く桃
の花の紅を見せたところなど何となく懐かしい繪である、**TH**
OMUS FAED 氏の IN TIME OF WARに

“O Logan, sweetly didst thou glide,
that day I was my, Wilkes bride!

And years sinsyae has ber me run,

Like Logan to the summer Sun.

But two thy fhomey banks appear.

Like dumlie winter dark and deair,

While my dear lod mann face his faes,

Far, Far, frae me, and Logan fraes —

といふパランスの詩からとつたので趣は充分に現はれてゐる。

“AND WHENDID YOU LAST SEE YOUR FATHER
R?”と題する W. F. YEAMES 氏の大作は忠實な描き方で

よく其情を寫し出してある“FROM GREEN TO GOLD”
といふ氣の利いた書題の畫は YEND KING 氏の作で、其

名の示す通り小川のはとりの初秋を寫したもので、和らかな手
際のよい繪である。以上は皆油繪であるが、水彩畫は百余點あ

つて、さすがに英國は水彩の本場と言はるゝだけに見耐へのあ
るものが多い、聞く處によればロンドンでも一寸これだけ澤山

の水彩畫を一堂のうちに見ることは出来ぬとの事である、大な

るもの小なるもの密なるもの粗なるもの結構布置をまぐぐて、
これを見た時の嬉しさは丁度空腹の時に澤山の御馳走を目の前
にさしつけられたやうであつた、そのうちで少しく飛抜けた作
を擧げて見れば、GEORGE COCKRAM 氏の海岸、これは横
長い大畫で、曾てローヤル、アカデミーのカタログでお馴染の
あるもの、雲といひ水と云ひよくもかく迄描き出したものかな
と暫時は我を忘れてしまった。ROBT. TALBOT KILLY
氏の“THE PURSUIT”は水極めてよく、H. WINDSOR
ERY 氏の景色は最も美はしく思はれた、ロンドンへ急ぐため
此貴重なる美術館を、僅か二回より訪ふことを得なかつたのは
實に残念である。(リヴァプールにて)

△ △ △

漸くにして榆林にたどりつく、なだらかなる山に、細く長いひ
よる／＼とした幾千本、幹は白きもの塗りたらんと思はるゝ
まで美しく、極めて細くこまやかなる末枝の交れるは、離れて
見る眼に烟れるが如し、蕭條たる空林の晩坐るに吟心を怡ばし
む。

白榆や冬構へせば誰と居ん

榆山や聳に來もせば炭焼かん

(二月二日紀行の一節、畔川生)

* * * * *